

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

9月1日現在・( )内対前月比

世帯 45,533 (+ 91)

人口 120,626人 (+120)

男 61,456人 (+ 80)

女 59,170人 (+ 40)

# 広報 **えびな**

本番さながらの通しげいで指導にも熱が入る(左から3人目が井上氏)



## 地元の芸能を次代へ

日本の代表的演劇である「歌舞伎」。発祥は江戸時代で、地方巡業によって全国的に庶民の間に広まったといわれています。農村では、祭礼や農閑期に素人歌舞伎が行われるようになりました。今回は住民の間に脈々と受け継がれてきた郷土芸能「大谷歌舞伎」をご紹介します。

### 大谷歌舞伎の魅力伝える

「手の回し方が違う！外側からだよ」大谷八幡宮の舞台裏手の練習場に演技指導の声が響きます。

声の主は、大谷芸能保存会歌舞伎部会の会長井上定明さん(77歳・大谷在住)。会員は市民文化祭・郷土芸能祭で行う演目「菅原伝授手習鑑」の練習の真っ最中です。

同会は、昭和46年に歌舞伎、はやし、さらさら踊りなどの伝統芸能を後世に伝えるために結成された「大谷芸能保存会」の一部門で、53歳から80歳までの会員18人で構成されている素人歌舞伎集団です。

「子どものころから素人歌舞伎が大好きで、今も面倒を見てもらっている蛭間師匠と出会い、地元で伝わる芸能を後世に伝えていきたいと思ったんだ」と井上さん。

素人歌舞伎は、昭和初期までは、国分をはじめ下今泉や杉久保などでも行われていました。当時は娯楽も少なく、盛大に行われていましたが、昭和30年ごろから急速に広まったテレビ放送によって、人々の興味が薄れ、素人歌舞伎はその歴史に幕を閉じていきました。

「一度は他の素人歌舞伎と同様に途絶えたんだ。5年くらいやらないときがあった。だけど、伝統をここで終わりにしたくないという思いが強かったんだね。周辺の神社では、祭りの出し物は舞踊が主流だったけど、大谷では歌舞伎をやろう」と先輩たちが言ってくれたときは嬉しかった」と井上さん。

大勢の観客の期待を受けて立った初舞台は50年が過ぎた今でも忘れられないといいます。

去年2月には、「地芝居ソフター」(東京都など主催)に県代表として、また同3月には横浜市で行われた「かながわの地芝居2002」に県内の4座のひとつとして出演するなど、その認知度は年々拡大しています。

「会員同士、練習時間を合わせるのも大変だけど、盛大な拍手と共にお客さんと一体化したときは、練習の疲れが吹っ飛びような気がします」また、「これからも続けていくことで、伝統芸能の魅力を呼びかけていきたい」と保存会のみなさんも熱く語ります。

往時の人々の心を魅了した「芸」が今も息づく大谷歌舞伎。みなさんもこの秋に、伝統芸能に触れてみてはいかがでしょうか。

### ※市民文化祭・郷土芸能祭で公演

●10月26日(日)午後1時から文化会館大ホールで(詳細は8面を参照)。